公　共

教　　科	公　民	単位数	２	学科・学年・組	全学科　１年
使用教科書	「公共」実教出版				
副教材等	担当教員が配布するプリント				

「公共」はどんな科目？

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す科目です。

「公共」の学習の特徴は？

現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身に付けることが出来ればと思っています。

１　学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学習内容（単元名）	学習のねらい
１学期	4 5 6 7	第１部：公共の扉 1.　社会を作る私たち 2.　人間としてよく生きる 3.　他者とともに生きる 4.　民主社会の倫理 5.　民主国家における基本原理 第２部：よりよい社会の形成に参加する私たち 1. 現代の民主政治と日本国憲法	・わたしたちの生きる「現代」の特色を知り、友人・家族学校・社会などとの関係を考察する。 ・「人間としてよく生きる」ことを人が意識してきた流れを知る。 ・人間と幸福、公正な社会について考える。 ・人間の尊厳と平等、自由・権利と責任・義務について考察する。 ・民主政治の基本原理や法の支配と法の意義、役割について考える。 ・民主政治の仕組みと課題を考察する。 ・世界のおもな政治制度を知り、日本との共通点や違いの意味を考える。 ・平和・人権・民主主義という憲法の基本原理の出発点には、「個人の尊重」という普遍的な原理がある。このことを理解したうえで、憲法原理の相互関連性や現実の憲法・政治の課題について考えさせる。 ・日本の政治機構について知り、その長所・短所を踏まえた上で主体的に政治に参加していくことのできる心構えを培う。
２学期	8 9 10 11 12	2.　現代の経済社会と国民生活	・資本主義経済の仕組みについて学び、その長所・短所について考える。 ・現代の市場と企業について理解し、わが国の経済社会の変化について考える。 ・国民所得の動きについて理解を深めるとともに、現代社会における公的部門の役割と租税の意義について考えさせる。 ・日本経済の歩み、産業構造の変化と技術革新について考えさせる。
３学期	1 2	第３部：持続可能な社会づくりの主体となる私たち	地球環境問題に関して、自ら課題を設定し、探求して、自分なりに意見を持つ。限りある資源をどう活用するか、エネルギーをどのように利用していったら良いかを考え、実践に移す。

２　評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の対象
知識・技能	授業の内容を理解することができる。	ノート点検 授業への取り組み 定期考査
思考・判断・表現	学習内容に関して、資料などを活用し、自ら考察することができる。授業内容を的確にまとめることができる。	授業への取り組み 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	授業内容に興味をもち、積極的に授業や課題に取り組むことができる。授業内容をノートに正確に記入することができる。	授業への取り組み ノート点検

令和８年度　シラバス　　　　　　　　　　　　　　　　　　岐阜県立岐南工業高等学校

地　理　総　合

教　　科	地理・歴史	単位数	２	学科・学年・組	全科　２年
使用教科書	「高等学校新地理総合」　帝国書院　　「新詳高等地図」　帝国書院				
副教材等	担当教員が配布するプリント				

「地理総合」はどんな科目？

社会科は覚える科目だと思われがちです。確かに知識量を増やすこと（覚える）も大切です。しかし、現代のインターネットが普及した時代では調べたいことは検索すればある程度の情報は簡単に得られます。では、現代を生き抜いていくためにどのような力が必要となるのか？それは情報を活用する力です。例えば砂漠が広がっている地域にはどのような法則があるか知っていますか？大切なのは砂漠がある地域を知っていることではなく、なぜそこに砂漠が広がるかがわかることなのです。地理では世界に広がる知識の「なぜ？」に迫っていきましょう。

「地理総合」の学習の特徴は？

現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養い、地理的な見方や考え方を培い、国際化が急速に進展していく現代社会において主体的に生きる日本人としての知識と教養を養います。

１　学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学習内容（単元名）	学習のねらい
１学期	4 5 6 7 8	**第１部：世界の諸地域の姿と地球的課題** １章　地球儀や地図からとらえる現代世界 ２章　人間生活をとり巻く環境	・地図のそれぞれに応じた用途があることを知る。 ・人間の活動の世界的広がりについて理解する。 ・身のまわりの国際化について、考えを深める。 ・地形、気候についての基本的な事項を身につける ・地形や気候と人々の生活との関係を学ぶ。
２学期	9 10 11 12	３章　世界の諸地域の生活・文化	・世界の諸地域に生きる人たちの生活や文化を知る ・世界の諸地域の地誌に関する基本的事項を覚える
３学期	1 2	４章　地球的課題と私たち **２部：身近な地域の課題** １章　身近にあるさまざまな地図 ２章　日本の自然環境と防災 ３章　身近な地域の課題と地域調査	・諸地域の人口、食糧、資源・エネルギー等の問題について理解を高める。 ・日本の自然環境から起こる自然災害と防災について理解を深める。

２　評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
知識・技術	授業の内容を理解することができる。	ノート点検、定期考査 授業への取り組み
思考・判断・表現	学習内容に関して、地図や資料を活用して考察することができる。授業内容を的確にまとめることができる。	定期考査 授業への取組
主体的に学習に取り組む態度	授業内容に興味をもち、積極的に授業や課題に取り組むことができる。授業内容を正確にノートに記入することができる。	授業への取り組み ノート点検

令和８年度　シラバス　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岐阜県立岐南工業高等学校

歴　史　総　合

教　　科	地理・歴史	単位数	２	学科・学年・組	全学科　　３年
使用教科書	「私たちの歴史総合」　清水書院				
副教材等	担当教員が配布するプリント				

「歴史総合」はどんな科目？

　ズバリ、現代の問題に対処し、少しでも良い未来を築くために役立てる教科です。
現代の環境問題やテロ、飢餓など、どうやったら解決できるのでしょう。どんな世界をめざせばよいのでしょう。手がかりは，過去にあり！日本の歴史を中心に過去を知り、人間が人間らしく生活していく上で大事にするべきは何か、考えながら、よりよい未来を目指しましょう。

「歴史総合」の学習の特徴は？

　地図、パネル、映像等を多用し、できるだけ具体的なイメージが持てるようにします。そして、身近なものから、日本史を中心に、歴史を意識できるように工夫した授業を展開します。

１　学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

	月	学習内容（単元名）	学習のねらい
１学期	4 5 6 7	第１編　歴史の扉 第２編　近代化と私たち 　第１章　生活や社会の変化 　第２章　結びつく世界と日本 　（１）18世紀までの世界 　（２）工業化と世界市場の形成 　第３章　国民国家と明治維新 　（１）国民国家と立憲体制 　（２）帝国主義とアジア・アフリカ 　第４章　近代化と現代的な諸課題	・産業革命・アメリカ独立革命・フランス革命など、その後の世界にどんな影響があったか、考察する。 ・開国から明治維新までの日本の近代国家形成について考察する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア進出とそれにさらされたアジア諸国の動揺を知る。
２学期	8 9 １０ １１ １２	第３編　国際秩序の変化や大衆化 　第１章　生活や社会の変化 　第２章　第一次世界大戦と国際社会 　（１）第一次世界大戦と国際社会 　（２）1920年代の世界と大衆の時代 　第３章　経済危機と第二次世界大戦 　（１）国際協調の挫折と世界大戦 　（２）世界大戦がもたらしたもの 　第４章　国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 第４編　グローバル化と私たち 　第１章　生活や社会の変化 　第２章　冷戦と世界経済 　（１）冷戦と国際政治 　（２）世界経済の拡大と日本	・世界の一体化が進み、一部地域による他地域の支配が強まった。現代世界が芽生えていることに注目する。 ・２つの世界大戦の原因や総力戦という戦い、それらが及ぼした影響を知る。また、現代の政治や経済状況と比較してみる
３学期	1 2	第３章　世界秩序の変容と日本 　（１）市場経済の変容と冷戦の終結 　（２）冷戦終結後の世界 第４章　現代的な諸課題の形成と展望	・冷戦終結後の世界の政治･経済の動向を知りどうすれば共に生きていけるか考察する。 ・現代の諸課題について、公共や地理総合で学んだことを活用して考察する。

２　評価の方法

評価の観点	評価の内容	評価の方法
知識・技能	授業の内容を理解することができる。	ノート点検 授業への取り組み 定期考査
思考・判断・表現	学習内容に関して、年表や史料を活用して考察することができる。授業内容を的確にまとめることができる。	授業への取り組み 定期考査
主体的に学習に取り組む態度	授業内容に興味をもち、積極的に授業や課題に取り組みことができる。授業内容を正確にノートに記入することができる。	授業への取り組み ノート点検